

令和4年4月1日

子どもたちの未来の「本物の笑顔」のためにチャレンジしていきます

～激しい変化への対応と一人一人を大切に作る教育を通して～

佐世保市立広田小学校
校長 井上 文典

はじめに

変化が激しい時代だからこそ「本物の笑顔」をめざします

加速度的に変化する時代、そして、コロナ禍に加え、平和を希求する我々の願いとは異なる世界情勢等、教育の本質的な意義について深く考えることが多くなりました。

時代の変化に対しては学校も様々な面でアップデートが求められています。特に、本市における「スマートスクール SASEBO 構想」は、まさに学校教育のアップデートの特徴の一つだと考えています。また、コロナ対応も続きます。感染症から命を守ること、人権を守るために意識しておくことを明確にするとともに、教育活動の優先順位を意識し、実践することも重要です。

一方で「一人一人を大切に作る教育」は、激動の時代の中にあっても普遍的な命題として位置づけ、重視していきます。学級に居場所があり、自己の存在、他者の存在を大切に作る教育活動を行い、あいさつやはきものそろえ等基本的な礼儀、マナーについて定着を図り、自他の命を大切に作る子どもを育てていきます。

変化の時は、不安になります。しかし、勇気を出して一歩踏み出せば、解決すべき課題が見えるようになり、具体的な策をもって前に進むことができるようになります。不安は具体的な行動、実践でしか払拭できません。私たちは子どもたちの明るい未来を信じ、日々の具体的な実践を通して、本物の笑顔が輝く子どもたちを育てていきます。

1 「どうせ無理」ではなく「わかった」「できた」と喜ぶ子どもを育てる

子どもたちの心から「どうせ…」のつぶやきをなくしていきます

「主体的に」や「当事者意識」という言葉がよく聞かれます。その阻害要因は「無関心」と「どうせ…」というあきらめの習慣です。「どうせ…」とつぶやくことは、思考をそこで止めることです。個に応じた指導、支援とともに、適切な負荷に対しては粘り強く取り組ませ、達成感を味わわせていきましょう。「自分でできた」という喜びは自立心の大切な種です。そして、学力向上は自立のための大切な柱の一つです。子どもたちの「自分で考えた（思考）」「自分で決めた（判断力）」「自分でできた・わかった（知識・技能）」この感動のそばに教師としていられる喜びを大切にしていきます。

2 共通実践ができるしなやかで、強い教師集団に

共通実践事項は大切にしていきます まず、「本物のはきものそろえ」から！

(1) 生活規律における最優先の共通実践事項の「まず〇〇」は徹底し必ず成果をあげます

「凡事徹底」この言葉は教育現場で常に謳われています。しかし、徹底は大変難しい課題です。そこで、まず「はきものそろえ」を徹底します。この「まず…」が徹底できなければ「凡事徹底」はできません。徹底できたことを子どもたちと共に喜び合い、そして、子どもたちの心の居場所を、授業や学級活動に広げていきます。

*ルールの解釈を人によって変えることは、子どもたちや保護者を混乱させます。生活規律をはじめ共通実践事項として決まったことは共に建設的に実践していきましょう。

(2) 学習のインフラとしての「学習規律」は粘り強く指導、家庭への啓発をして定着させます

学習の準備、話し方、聞き方等の学習規律の定着は、学びの土台です。この学習規律の定着のために一番大切なことは、粘り強い指導と、指導の工夫です。そして家庭への継続的な啓発です。学習規律の定着が学力向上の鍵を握っています。

3 学級づくり、学級の力がすべての土台です

学級づくりはトライ＆エラーでOK！ 失敗や困難の学びから、個と集団が育ちます

(1) 学級目標を大切にします

学級目標は学級の行先表示板です。学級で一番大切な言葉であり、学級の物語のタイトルです。また、学級目標は、自己理解、他者理解、他者貢献など、子ども自身が自分の成長を確かめる物差しであり、学校生活に関わる指導と評価が客観的であるための軸の一つでもあります。

常に学級目標を意識した学級経営に努め、子どもたちの心に残る一年をつくっていきます。

(2) 安心して、自信をもって自己決定できる学級の風土をつくります

学力の要素に「判断力」があります。自分で判断し、自己決定する力を付けるために一番大切なことは、自らチャレンジし、判断や決定の間違いを経験することです。今、この経験が不足しています。

「間違ったけど、自分で決めることができた」という自己評価、他者評価を大切にしながら、優しく強い学級をつくっていきます。

(3) 「学級の力」の伸びを実感させながら学級をつくっていきます

子どもたちには学級の力（学級力）の伸びを実感させていきたいと考えます。そのための手立てについては、アイデアを出し合い、チャレンジしながら研究を深めていきます。そして、学級の実態や学年の発達段階に応じ、子ども自身が学級の課題に気づき、課題解決のためのアイデアを考え、主体的に解決へ向けて実践していきます。

(4) 人間関係形成からキャリア形成をしていきます

礼儀・マナー、話し方、聞き方などのソーシャルスキルは人間関係形成力の基礎です。普段の授業、学級活動の中で指導し、しっかり身につけさせます。そして、様々な汎用的な力を身につけながらキャリア教育の充実を図っていきます。

4 子どもの言葉、行動は身近な大人の「今」を写す鏡

先生の笑顔は大切な手本です

「本物の笑顔」は子どもたちだけでなく、我々教師にとっても大切にしたい言葉です。大人にも夢があります。教師としての自己実現があります。

年齢や経験、役割や立場に関係なく教師が成長するためには、自分の今（課題）をしっかりと受容し、自分の課題から逃げずに、正面から対峙し職責を果たすことと、教師として他者貢献を意識することが大切だと考えています。また、**教師間の相互理解、コミュニケーション**は私たち教師にとってとても大切です。まず、あいさつ、そして学年間の疎通を土台としながら、**明るく温かい言葉で包まれる職場環境**をつくっていききたいと思えます。

教師の「本物の笑顔」は子どもたちの手本です。共に「本物の笑顔」を目指していきましょう。

結びに

校風そして「薫習」

広田小の子どもは、この学校の様々な風を感じて育ちます。

校庭に可憐に咲き、頑張っている花を見て育ちます。あいさつをする大人に囲まれて、あいさつの「心」を知ります。はきものをそろえる人を見て、物事を整えることの大切さを知ります。広田小の教育文化はとても大切です。そして、これからも、それが校風となり「薫習」となっていくます。

令和4年度、新しいスタッフとともに新しい帆をはり、新しい風を受け出航できることを嬉しく思います。

「チーム広田」…子どもたちの未来の「本物の笑顔」のためにチャレンジします。